



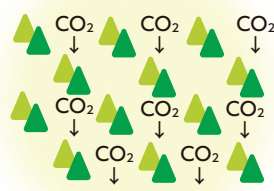
つなげよう
八頭の森林を
未来へ

八頭町の森林面積は16,557[㍔]で町面積全体の約8割を占めています。森林は私たちが生活していくうえで大切な公益的機能をもっています。この機能を活かすには、森林をしっかりと整備していくことが必要です。しかし、現在、林業の採算性低下や担い手不足などによって整備不足の森林が増えるという課題を抱えています。

このような中、「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が平成31年4月に施行となり、令和元年度から森林整備などの新たな財源として「森林環境譲与税」が譲与されています。そして、令和6年度から、この森林環境譲与税の財源となる「森林環境税」の課税が始まります。今月は森林の現状と制度を活用して町が進める森林づくりの取り組みを紹介します。

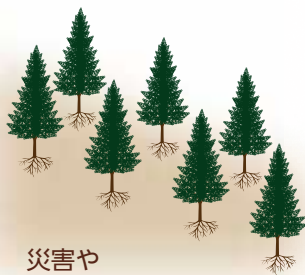
森林の役割と課題

森林は、CO₂削減などの環境保全や防災、水の浄化など、さまざまな場面で私たちの暮らしを支えています。しかし、木材価格の低下、森林



温室効果ガス削減に

日本のCO₂吸収量のうち、9割以上は森林が吸収しています。また、木材には炭素を固定する役割もあります。



災害や土砂崩れを防ぐ

木の根は土を固定して土砂崩れを防ぐとともに、下草や落葉・枝などは表土が流れるのを抑えています。



雨水を地中に浸透させる

雨水が落ち葉を通して土中にゆっくり浸透することで、川への急激な流出を緩和するとともに、水を浄化しています。

所有者の高齢化、管理意欲の低下、担い手の不足などが大きな課題となっています。



整備されていない人工林。木と木が混み合い、幹が細く、光が地面に届かないため、地面に植物が生えず災害に弱い森林へ

森林環境税とは？

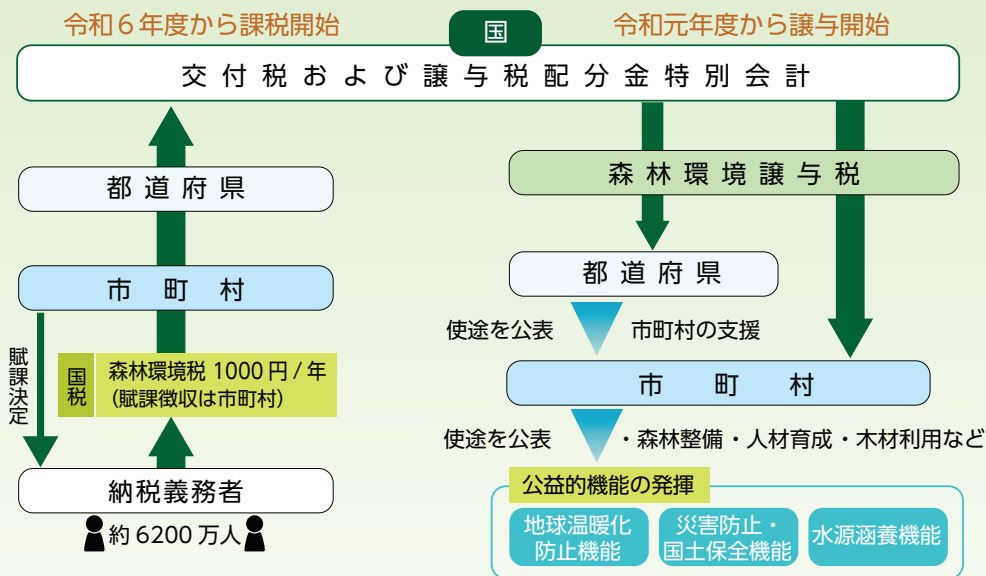
このような中、平成31年3月に地球温暖化防止や災害防止などを図るため、森林の整備等に必要な地方財源を国民一人一人が等しく負担し、安定的に確保する観点から、「森林環境税」が創設されました。

令和6年度から、市町村において、個人住民税均等割と併せて一人あたり年額1000円を徴収します。

森林環境譲与税とは？

国に集められた森林環境税を基に、私有林人工林面積、林業就業者数および人口による基準で按分し、

森林環境税および森林環境譲与税の制度設計イメージ



市町村と都道府県に再配分するものが「森林環境譲与税」で、配分は令和元年度から前倒しで譲与されています。市町村においては、森林整備、担い手育成、木材利用促進等の施策に充てることとされています。

八頭町の譲与額 (単位：千円)

令和元年度	13,312
令和2年度	28,288
令和3年度	27,817
令和4年度	35,152
令和5年度 (見込)	35,152
令和6年度～ (見込)	48,862

(森林環境税のロゴマーク)



※ロゴマークのコンセプト

森林資源の循環を、3つの要素「林業」「木材産業」「木材利用」をそれぞれ「木」「加工された木材」「建物」というシンプルなモチーフを使い表現。全体を大きな山のシルエットで覆うことで、森林環境税・森林環境譲与税を森林整備等に活用することによる「大きな森林の健全な循環」を伝えていきます。